

評価項目	評価の観点	担当部	年度末評価	評価
重点目標1-(1) (2) 安全・安心な教育を推進するための取り組み	・いじめや暴力・暴言を許さない学校づくりを進めるために、生徒が発する小さなサインや人間関係の悩みを見逃さず、早期発見・早期対応ができたか。	(生徒指導部)	・学校生活や人間関係の悩みに対して、授業、ホームルーム活動、班活動を通して情報共有や問題解決に努めた。 ・今後もあらゆる場面で生徒のサインを見逃さないよう、潜在的な問題についても取り組んでいきたい。	B
	・集団での人間関係づくりや学校での居場所づくりを心がけるとともに、学校生活への不安や悩みなどに対して心のケアができたか。	(保健厚生部)	・学校生活・家庭生活への不安や悩みについて、こどな面接を全職員で行い、集団での人間関係づくり・学校での居場所づくりに取り組んだ。今後も日常的に心の継続的支援を行っていきたい。	B
	・生徒に対する人権尊重や安全・安心な学校づくりを推進するために、教職員の意識啓発を図り、生徒の心情に寄り添った教育を推進できたか。	(保健厚生部)	・職員研修を通じて職員の意識啓発を図った。生徒に対する人権尊重や安全・安心な学校づくり推進のため生徒の心情に寄り添った教育推進に今後も継続して取り組んでいきたい。	B
	・防災や事故防止の意識を高め、生徒自らが身を守ることができる力を育成できたか。	(教務部)	・9月の防災月間には、危機管理の専門家を招き防災啓発講演を実施した。能登半島地震の支援活動の経験から大地震に対する日常の備えと発生時の行動について講話をいただき、少しでも自分事として捉えることができた。またオクレンジャーを利用した生徒・職員への安否確認メールの試行や防災避難カードの整備を行い、不測の事態に備ることができた。	B
重点目標2-(1) (2) 学習習慣の確立と学力を向上させるための取り組み	・授業規律や授業五か条にもとづき、授業時間の厳守や学習に向かう姿勢、学習のねらいを意識・理解させ、3観点を踏まえた座学や実験実習を行うことができたか。	(進路指導部)	・授業の五か条を「授業の心構え」に変更し、授業を受ける心の準備・授業中の態度を強調した。今後も3観点を踏まえた授業では、特に「思考・判断・表現」「主体的な態度等」を充実すべく授業の形態や教材の工夫を行っていきたい。	B
	・生徒の学習意欲を喚起し、基礎学力の定着を図るために、教材の開発や工夫、外部講師の活用や校外学習、ICT機器や視聴覚機器の活用など授業改善ができたか。	(教務部) (情報部)	・電子黒板の活用や動画教材の利用により授業が分かりやすい、理解しやすいとの声が多い。しかし一部で、電子黒板の位置や色使い等で見やすい配慮が必要との意見もある。自ら考え、話し合い、発表する学習活動もさらに充実させたい。 ・Google for Educationなどの利用が普及しており、今後の授業改善に有効なソフト等を検討していきたい。	B
	・学習評価等を活用し、分かりやすい授業の実践や生徒に対する学習支援を通して、一人ひとりにできる自信と学ぶ喜びを実感させ主体的に学ぶ姿勢を醸成できたか。	(教務部)	・生徒の授業評価によれば、「私は集中して取り組んでいる」約84%、「進度や難易度は自分にとって適切と感じる」約77%、「先生は関心を高め、分かりやすい授業をしている」約77%であった。 ・電子黒板の活用や動画教材の利用により「授業が分かりやすい。」「自分で調べることで理解が深まった。」など有効に使用されており、今後もICT機器の活用に関する職員のスキルアップを図り、「わかるできる授業」の実現に努めたい。	B
重点目標3-(1) 基本的生活習慣や秩序を確立するための取り組み	・校則の意義や道徳心の大切さを理解させ、組織や集団においてルールやマナー・秩序を自発的に守る指導を通して、健全な人権感覚や規範意識を育むことができたか。	(生徒指導部)	・校内の規則について、校友会・自治部と連携を取りながら、生徒を交えてルールの在り方や自らルールを守るという気持ちを醸成させるよう取り組んだ。他者尊重や人権感覚についても考えさせ、未然防止に努めたい。	B
	・気持ちのよい挨拶や思いやりのある人間関係を形成させ、楽しく明るい学校生活や校風づくりを醸成できたか。	(生徒指導部)	・生活委員会及び全職員による挨拶運動を通して、生徒・職員お互いが、気持ちよく過ごせる学校生活づくりに取り組んだ。 ・安心・安全な学校生活を送れるようクラスへの掲示を行い、規範意識を醸成させるよう取り組んだ。	B
	・学習指導と関連付けながら日常的な生徒指導の充実を図るとともに、多様な背景を持つ生徒の個別理解を深め、問題行動を未然に防ぐ予防的指導ができたか。	(生徒指導部)	・学年会・生徒指導部会を通じて問題を抱える生徒の情報共有や問題の早期発見・対応に取り組んだ。 ・外部の機関などと連携をはかり、安心安全な学校づくりを目指し、生徒の安全や問題行動の予防的措置に取り組んだ。	B
	・清掃美化等の活動を通して、生徒自らが学習環境を整えるとともに、ゴミ分別やリサイクル意識を身につけさせ、公共心や社会性を育むことができたか。	(保健厚生部)	・美化委員の当番活動やトイレ掃除の方法改善を通して、ゴミ分別・リサイクル意識を高め、公共心・社会性の向上に努めた。ゴミ分別についてはまだ不十分であり、ホームルームにプリント掲示をしながら今後も継続して徹底していきたい。	B
重点目標3-(2) 課外活動を充実するための取り組み	・校友会、班活動、農業クラブ等の課外活動の目標の達成に向けて、主体的かつ協働的に活動できるよう適切な助言・指導をすることことができたか。	(自治活動部)	・生徒の斬新な発想や主体的な取り組みを尊重しながら、粘り強く前向きに活動できるよう職員が助言することで、個々の目標達成を支援することができた。	A
	・生徒が学校の特色や伝統を尊重し、学校生活の身近な諸課題の解決や学校文化の創造に向けて、主体的に活動できるよう支援することができたか。	(自治活動部)	・学科改編に伴って生じる問題や学校生活における課題について、生徒たちの「〇〇をやってみたい」という活動を見守り、支援することができた。来年度もできる限り生徒たちの自発的な声を尊重しながら、取り組みを支援していきたい。	A
重点目標4-(1) 進路希望を実現させるための取り組み	・個々の生徒の実情や多様化・複雑化する進路希望に応じた計画的・段階的な進路指導と、進路実現のための個別の学習指導と進路情報の提供・活用ができたか。	(進路指導部)	・教員側も入試制度や就職・企業に係る多様な知識やノウハウを今まで以上に必要となってきているが、丁寧な個別の進路指導に努めることができた。また、効率的・効果的な指導を行うために、タブレットの有効活用や個別の調べ学習を徹底させるなど、生徒が主体的に動ける工夫を行うことができた。	A
	・進路講話やガイダンス、職場体験や事業所見学等の多様な機会を活用し、生徒一人ひとりのキャリア形成を支援することができたか。	(進路指導部)	・就職希望者や進路未定者が夏季休業中のインターンシップに15名程参加し、自分のキャリアを考え始めるきっかけとなつた。また、校外の進学ガイダンスには毎回10~20名参加し、低学年から進路の意識づけをさせることができた。	A
	・家庭との連絡・相談を密にし、生徒の個性や適性、希望に応じた進路を実現させることができたか。	(進路指導部)	・キャリア教育全体計画や学年別進路学習計画に則り円滑に実施できた。2学年末までには進むべき道（就職・進学・自営）を決定できるよう、さらに家庭内での話し合いや三者懇談会を通して早めに方向付けをさせるよう努めたい。	B
重点目標4-(2) 資格取得を推進するための取り組み	・生徒に資格取得の意義や目的を理解させ、生徒一人ひとりが目標をもって自発的に検定や資格に取り組むよう指導することができたか。	(農場部)	・年度当初に生徒に資格取得計画を示し、資格の内容や取得のメリットについて様々な場面で生徒に説明をることができた。授業・進路・興味関心に応じた資格取得への取り組みが見られ、多くの資格を取得することができた。 ・次年度もアグリマイスター顕彰制度のメリットを強調し、自主的に資格取得に取り組めるよう指導していきたい。	A
	・分かりやすい教材の工夫や効果的な指導によって、より高い合格実績を目指すとともに、生徒が資格学習を通して成長実感を味わえるよう支援することができたか。	(農場部)	・特に専門科目に対する関心が高く、興味をもって楽しく授業を受けている。生徒の理解や技術向上に応じた適切な指導を行うとともに、時間割外も補習を通して資格取得指導や学習の雰囲気づくりに努めている。また、自主的に取り組む姿勢がしだいに身についている。	A
重点目標5-(1) (2) 地域理解と地域活動を推進するための取り組み	・地域連携や地域貢献に係る活動に積極的に参加することを通して、地域や産業に対する関心・理解を深めることができたか。	(農場部)	・各学科の特色を生かした授業や専門研究班の活動において、地域と連携・協働した活動を実施している。連携を通して地域の状況や産業について学ぶ良い機会となり、各種発表会において活動について評価をいただくことができた。	A
	・学校で学ぶ専門的な知識・技術や高校生の発想・アイデアを活かし、地域の問題解決や産業振興につながる実践的・探究的な活動を行うことができたか。	(農場部)	・「生産者と連携した南信州の伝統野菜の栽培と販売」、「地元の推し食材を利用した地域おこし弁当の開発と販売」「飯田短大及び飯田菓子店と連携した地元産日本梨のスイーツ開発と販売」「地元と連携した放置竹林の整備と有効活用」など実践的・探究的な地域連携活動を行い、地域課題の理解とその解決に向けて具体的な取り組みを行うことができた。さらに各種大会の活動発表では、上位入賞を果たすなど大きな成果を上げることができた。	A